

# 中国四国食育ネットワーク広島地域会員交流会 拠点概要

開催日時：平成 27 年 2 月 7 日(土)10:30～11:45

開催場所：KKR ホテル広島（広島市）

出席会員：9 団体、15 名

(司会進行 広島地域センター 樋口総括農畜産安全管理官)

## 1 開会挨拶（広島地域センター 楠田総括管理官）



- ・ 中国四国食育ネットワークは、食育を国民運動として推進していくため、食育実践者及び食育に関心がある者との情報交換の場として平成 19 年に設立。
- ・ 活動内容は、会員の活動を農政局HPで紹介するほか、会員が主催するイベントや食育活動の情報について、会報誌による交流や「食育推進だより」、メールマガジンなどによる情報を発信。
- ・ 一昨年、会員の皆さんへのアンケートを実施したところ、「各地域における会員相互の意見交換の場を設けてはどうか、団体同士の情報交換の場が欲しい」との意見を踏まえ、広島では今回初めて交流会を開催。
- ・ 現在、農林水産省においても「日本再興戦略」や「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づき、食育を通じた国内需要の増大を図ることを目的に推進中。
- ・ 本日は限られた時間ではあるが、会員相互の情報交換や意見交換により、活動の理解を深め、連携した食育活動ができるきっかけの場となれば幸い。

## 2 自己紹介及び活動概要等の報告

出席した団体の代表者から「会員情報」等に基づき、食育活動の状況について説明。

### ○ 公益社団法人 広島県栄養士会（木村副会長）



- ・ 約 1,400 名の会員が支部や職域において、「県民のよりよく生きる」ための公益活動を展開し、県民の健康づくりを栄養の面からサポートしている。ニーズや目的により適切な職域が（必要に応じて複数の職域が連携して）担当することができるのが当組織の強み。会員は生涯教育研修事業等によりスキルの向上に取り組んでいる。
- ・ 今後の課題としては、より適切な事業運営ができるよう、更なる人材育成と、組織内や団体間の連携を強化して活動に取り組んでいきたい。

## ○ 呉市消費者協議会（清田会長）



- 昭和44年に設立、会員は約500名。年会費は1人300円、市からの助成も受けながら消費者の利益・権利に関する活動について、各グループに分かれ、月1回理事会を開催し、具体的な活動内容を決定しながら取り組んでいる。

- 食に関する活動は、コンビニ弁当の調査、地区別の郷土料理の発表会、学童保育の児童と父親による食育教室、呉市水産部局との連携による魚の消費拡大を目的とした魚料理教室などに取り組んでいる。

## ○ 門藤農園（門藤氏）



- 米生産が主体の農家。化学肥料、農薬を使わないで生産。15haを家族で経営。ほとんどを消費者に直接販売しており、健康志向で今は販売する米が足りないくらいの状況。
- 幼稚園や小学生を対象とした米作りや味噌作りの体験・交流に多く取り組んでおり、交流の対応で忙しい。

## ○ 広島魚市場株式会社（吉井課長）



- 近年魚食離れが加速していることから、それに歯止めをかけるのが活動の目的。
- 従来から消費拡大には取り組んできたが、1社で対応するのは効率が悪く広域性に欠けることから、近年地元企業等と連携を図りながら取り組んでいる。
- 食と健康については、魚食も大きなカテゴリーと考えている。協力できることは積極的に対応していきたいので、気軽に相談してほしい。

## ○ 広島水産株式会社（東氏）



- 最初は小学生の家庭科の授業の一環として15年前くらい前から取り組んでいたが、効率が悪いので企業とのコラボに移行している。食育のターゲットは、近いうちに親となる高校生や大学生、若い親へ啓発した方が効果が高いと考え、現在取り組んでいる。
- 魚食については、骨や残渣の処理が課題。調理方法の工夫など

の情報も併せて発信している。希望があれば情報提供する。

### ○ 株式会社 スパーク（信木氏）



- ・ 「5 A DAY」という野菜や果物をしっかりと食べようという事業を全国団体と連携しながら全国統一のプログラムで取り組んだ。小学3年生が食べ物の好き嫌いを決める時期といわれていることから、小学3年生を対象に実際の店舗で体験学習を行った。
- ・ P T C（注）活動として公民館等に仮想店舗等を設置し、買い物体験などによる食育推進に取り組んでいる。購入や調理の決定権を持つ親への啓発も重要であることから、親子での体験が重要と考えている。また、工場見学もメーカーとタイアップして取り組んでいる。
- ・ 昨年は農水省の事業であるフードチェーン食育体験として、食品の生産から流通、加工、販売までを体験する事業にも取り組んだ。（キャベツの収穫からお好み焼き作りまで）

注：P T Cとは「Parents 保護者 & Teachers 先生 & Children 児童」の略。基本的に保護者と児童、先生が一緒に行うレクリエーションなどの活動を表す。

### ○ 株式会社 フレスタ（迫本氏）



- ・ 現在は核家族化で調理方法や料理の伝承が難しくなっていることから、店舗併設の簡易キッチンで旬の食材の調理方法の提案を行っている。また、横川店で生産者も交えた料理講習会などに取り組んでいる。
- ・ 教育委員会との連携で、児童が自ら作る「お弁当の日」（買い物、調理、食事までを取り組む）を支援した。

### ○ 特定非営利活動法人 セルクル（小池理事長）



- ・ 平成14年に異業種交流を目的に115団体で設立。食育関係では4年前に、そごうデパートの屋上に農業の体験塾を開設した。障がい者への支援・自立のための農園もある。冬季は閉園しているが、春からは、もち麦とサツマイモの二毛作を行っている。もち麦は（株）アンデルセンと連携しながら健康食品として進めしていく予定。
- ・ 当法人の最終的な目的は「農業を中心とした街づくり」による島しょ部や山間部の自活、活性化を目指している。本日ご出席の方々とも連携させていただき、事業を展開していきたい。

## ○ 一般社団法人 ローカリズム推進楽会（平山代表理事）



- ・ 一般社団法人としては昨年7月末に設立。それまでは株式会社平山友美フードトータルプランニングとして活動。
- ・ 当団体は「講師業」が柱。人にわかりやすく伝えるには対象を絞って設定し、それに応じた内容、手法の選定が重要。
- ・ 「作り手と食卓を共にする会」は食材の歴史や背景、生産者の思いなど料理を囲み、しっかり味わいながら意見交換することで、生産者への理解や距離感が縮まる。

## 3 食育に関する情報提供（広島地域センター 福永主任農畜産安全管理官）

- ・ 「我が国の食生活の現状と食育の推進について」資料によりポイントを説明。
- ・ 第3回食と農林漁業の食育優良活動表彰について説明。
- ・ 日本食文化ナビ「NOTE」について説明。

## 4 意見交換

- ・ 親への啓発の意味も含めるとPTCは重要。親子で食育体験活動ができる場の情報が少ないのでないか。情報を目に留まりやすくしてほしい。（セルクル）
- ・ 食育体験活動を実施する際は受け手側の意向や立場、環境等により、調整が難しい場合も多く、実施できるところが限られてくる場合も多い。当協会では学童保育の児童と父親を対象に取り組み、好評であった。食育は小さいことでも地道に継続して実施することも重要。（呉市消費者協議会）



## 5 閉会挨拶（広島地域センター 樋口総括農畜産安全管理官）

本日は限られた時間で十分な意見交換とはならなかつたが、会員の皆様からの活動報告は参考となつた内容も多くあつた。本日の交流会をきっかけに今後会員相互に連絡を取り合いながら、連携・協力した食育活動の推進ができるこつを期待します。

以上。